



「福澤育林友の会」ニュース

第8号 発行日 2005年7月8日
 福澤育林友の会
 東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部
 TEL03-5427-1532・FAX03-5427-1533
<http://www.f-ikurin.jp>

第4回森を愛する人々の集いを開催

5月21日、慶應義塾大学三田キャンパス東館6階G-SECラボにおいて、第4回「森を愛する人々の集い」が開かれました。

今回の講演は、(株)カタログハウスの竹本徳子取締役エコひいき事業部長を講師にお招きし、「持続的消費」についてお話しいただきました。

また、初めての試みとして(財)福澤記念育林会の平成16年度助成金を受領された「北信濃森の仲間」代表の藤野珠枝さんから活動報告を頂きました。

その後、会場を北館会議室に移し、懇親パーティーを開催し「森を愛する人々」の集まりに相応しい盛り上がった集いとなりました。

(株)カタログハウス竹本徳子取締役の講演

(株)カタログハウスは、通信販売雑誌の「通販生活」でおなじみです。地球を守ろうとする熱心な姿勢が特徴で、消費者の信用と満足を得るため、品質はもとより、環境に配慮した商品を扱っています。会場では、環境とビジネスの両立をはかるための様々な取り組みをお話いただきました。

同社は、8つの「売らない」ルールを掲げています。

- 1) ダイオキシンを発生させやすい商品
- 2) 環境ホルモンの疑いのある商品
- 3) 熱帯雨林を破壊させる商品
- 4) 化学物質過敏症を減らすためホルムアルデヒドを含む商品
- 5) 河川汚染を促進する商品
- 6) 地球温暖化を促進する代替フロン入り商品
- 7) 安全性に疑問を残す食品
- 8) 野生動物の皮革・毛皮を使った商品

以上のルールをもとに、メーカーと交渉し、品質とトレーサビリティのチェックを行い、マーケティング調査をした上で、商品を決定しているそうです。また、消費者への環境教育にも力を入れ、月に一度「カタログハウスの学校」を開催し、持続可能な社会に向けた啓蒙活動をしています。日本の森林を守るためにも熱心に活動し、間伐材を使った商品やFSC商品も多く販売しています。竹本さんの歯切れの良い語り口と、地球を守るための世直し論に、参加者は相槌をうちながら聞き入っていました。

地球環境を破壊する現代消費社会を憂いながらも、何をすればいいのかと模索していましたが、「賢い消費者になることが地球を救う第一歩」だと確信しました。ライフスタイルを見直し、自分の行動が環境にどんな影響を与えるのか、どんなときにも想像する習慣を身につけたいものだと心がけを新たにいたしました。

| | |
|--------------------|----|
| 第4回森を愛する人々の集い | P1 |
| 平成16年度助成金受領団体の活動報告 | P2 |
| 特別寄稿「台湾で野鳥を楽しむ」 | 別冊 |
| 平成17年度助成金応募受付開始 | P2 |
| 秋の研修旅行 | P3 |
| 連載「あじさい」 | P4 |



平成 16 年度助成金受領団体「北信濃森の仲間」代表藤野珠枝さんの報告



平成 16 年度の補助金(10万円)の助成は「北信濃森の仲間」に決まりました。「森を愛する人々の集い」の折に、同団体の活動内容を代表の藤野珠枝さんに報告していただきました。

「北信濃森の仲間」は長野県北部で小規模山林(人工林)の手入れを中心に行っています。藤野さんの所有山林の手入れを森林組合に頼んだところいい加減な作業をされたため、一念発起して藤野さん母娘とプロ、アマ 6 人で山作業を始めたのがきっかけです。

最初は「素人が山の手入れなんか」と相手にしてもらえなかったのが地道な活動が地元の人たちにも知られるようになり、手伝ってくれる人も年々増えてきています。

東京で建築事務所を開いている藤野さんは「使うために植えた木を使いたい」という思いがあり、伐った木の搬出まで行いチェーンソーミル使って、丸太を製材までしています。又時には丸太から自分達の家で使うベンチや棚板をボランティアの人たちと一緒に作ったりしています。

尚、補助金の使い道として以下の報告がありました

- ミツバツツジの苗 100 本 70000 円
- 森林ボランティア保険代一年間 48000 円
- などの一部 100000 円に使いました。

「都会で仕事を持つ女性が郷里でこのような活動をしているのを知り、とても新鮮だった」と会場の方々からの感想をいただきました。

特別寄稿『台湾の野鳥』—(別冊特集記事)



当会会員で、(財)福澤記念育林会の評議員を務めて頂いている仲津英治氏にご寄稿を頂きました。同氏は、台湾高速鐵路公司安全部主任工程師として台湾新幹線の開設にご尽力をされている傍ら「地球に謙虚に」提唱され同会の代表として自然保護活動に取り組まれています。台湾でお仕事をされる傍ら野鳥観察を通じて現地の方々と交流をもたれているお姿に敬服する次第です。

平成17年度 『森林環境保全に関する研究および事業活動』

に対する補助金の申請受付開始のご案内

(財)福澤記念育林会では表記補助金の申請受付を開始いたしました。

金額は10万円と小額ですが、申請や事後報告も極めて簡便です。詳しくは(財)福澤記念育林会のホームページをご覧ください。尚、申請要領や書式等の郵送を希望される方は事務局までお申出ください。

東京都港区三田2-11-15 三田川崎ビル3階

(財)福澤記念育林会 事務局

電話・FAX: 03-5440-8953

秋の研修旅行の概要

9月10日から11日にかけて石川県と岐阜県の県境に近い石川県尾口の森を訪れることに致しました。尾口山林は塾員の三谷充氏から寄贈頂いた山林で、主として落葉広葉樹に覆われています。この地域は富士山、立山と共に、日本三名山の一つに数えられ、ユネスコの生物圏保存地域にも指定されている白山を中心とする白山国立公園に近く、素晴らしい自然環境に恵まれた地です。

ここを基点として国立公園を横断する白山スーパー林道は標高 1500mの高地を走り岐阜県白川郷に繋がっています。是非このスーパー林道沿道の動植物や眺望を楽しんで頂きたいと思えます。

この林道の終点は世界遺産登録で脚光を浴びている合掌造で有名な「白川郷」ですが、その集落を見下ろす高台に今年4月にオープンしたばかりの「トヨタ白川郷自然学校」があります。

学校という堅苦しい名前がついていますが、ゆっくり温泉に浸かって頂き、新鮮な食材を使ったフランス料理を優雅に楽しみつつインストラクターの指導の下で体験学習をして頂く施設です。

にご宿泊を頂き、近くの森をインストラクターと共に散策して頂く予定です。

夜晴れていれば星が輝く夜空も楽しんで頂けるものと思えます。

ここから少し下って所に「合掌造りの村白川郷」があります。ここを見学頂いた後に「愛地球博」が開催されている長久手に向い、お好みによって万国博覧会の見学や世界の自動車が展示されている「トヨタ博物館」を見て頂くか、名古屋駅近くまで直行し、日本の産業の近代化への歩みの一端を紹介している「トヨタ産業技術記念館」に立寄るオプションツアーを計画しています。

楽しみながら学んで頂けるよう準備を進めていますので、ぜひ参加をされることをお勧めいたします。



尾口の森に向う



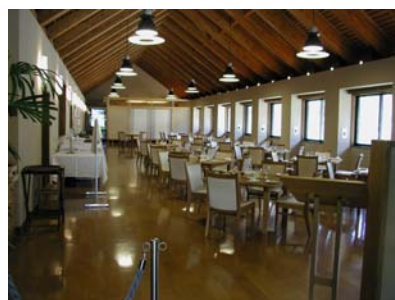
引渡し式



看板の除幕



トヨタ白川郷自然学校



レストラン



集会場



白山



白川郷



トヨタ博物館の展示
アルファロメオ

『アジサイ』（紫陽花）

福山欣司・慶應義塾大学経済学部助教授

関東地方は6月10日に入梅となった。梅雨と言え、アジサイが定番の花だろう。誰もが知っているアジサイ。しかし、調べてみると不思議なことが幾つもあるのはご存じだろうか。

アジサイは漢字で書くと紫陽花である。しかし、牧野新日本植物図鑑によると、「あじさい」の「あじ」は「あつ」で集まること、「さい」は真藍(さあい)の約されたもので、青い花がかたまって咲く様子から名付けられたという。したがって、アジサイを漢字で書くなら、集真藍のはずである。紫陽花では青い花がかたまって咲くという意味にはならないし、そもそも「あじさい」とは読めない。実は、紫陽花とは中国の白楽天の詩に出てくるアジサイとは無関係な花の漢名で、平安時代に源順が「和名類聚鈔」の中で誤用したものがそのまま定着してしまったのだという。間違いでも全員が間違えば正解と言うことだろうか。

アジサイは植物としても不思議な存在である。例えば、庭にアジサイを植えるために園芸店に出かけても、苗はあっても種を入手することは出来ない。アジサイには種が存在しないからである。あんなにたくさん花が咲くのになぜ種が出来ないのだろうか。アジサイの花には、大きな花びらが4枚あるように見えるが、実はそれらは花弁ではなくガク片の変形したものである。さらに、花の中心部分には、雄しべや雌しべが存在しない。こうした種を付けられない花は、修飾花と呼ばれている。アジサイは、すべての花が修飾花になるように野生種から人為的に造り出された園芸品種である。

アジサイの原種はガクアジサイだと云われる。ガクアジサイは暖地の海岸などを好む落葉低木で、関東にも自生している。植木としてもよく用いられ、日吉キャンパスでも校舎周辺に植えられている。ガクアジサイもアジサイ同様茎の頂に大きな花序を付ける。しかし、修飾花は花序の周辺部だけで、中心には雄しべと雌しべを持つ両性花を咲かせる。つまりちゃんと種を付ける花である。両性花にはガク片がないので花としては目立たない。そこでガクアジサイを修飾花だけに品種改良し、アジサイとなったのである。ただ、アジサイには両性花が僅かに残っていて、まれに種が出来ることがあるという。

アジサイは歴史的にも数奇な運命を辿っている。アジサイの品種改良がいつ頃始まったのか定かではないが、少なくとも江戸時代にはたくさんの品種が存在していたようである。その後、一部の品種が、中国を経由してヨーロッパへ持ち込まれた。明治になると、ヨーロッパで改良されたアジサイが日本に逆輸入されて公園などに植えられるようになった。このアジサイがセイヨウアジサイである。セイヨウアジサイは、アジサイとは異なり完全に修飾花だけになっている。見栄えの良いセイヨウアジサイは急速に広まり、今や公園や庭などで見かけるアジサイのほとんどはセイヨウアジサイのようである。

さて、最後に自然に生えているアジサイも紹介しておこう。アジサイの仲間は何種類かあるが、日吉には1種だけ野生のアジサイが自生している。コアジサイと言い、その名の通り小振りなアジサイである。5月下旬から6月にかけて、コアジサイは枝先に白い小さな花を集めた花序を咲かせる。修飾花を持たないので、花が咲く様子はミズキやガマズミに似ている。コアジサイはあまり日の当たらない場所に生えることが多く、薄暗い中で楚々と咲く様は、艶やかなアジサイとはまた違った趣を楽しませてくれる。



アジサイ



ガクアジサイ



コアジサイ



西洋アジサイ